

ものわすれ外来を知っていますか？

医療法人 松和会 門司松ヶ江病院

ものわすれ外来

について

当院では、一般の精神科の診療だけではなく、加齢による精神障害の方も診断治療をしています。ものわすれ外来は、北九州市が平成12年度からモデル事業として行ってきたもので、昨年から本事業化されました。当初3病院の精神科外来で始まった協力医療機関も、今年度は35の精神科・神経内科・脳神経外科・内科など多岐にわたる医療機関へと拡大しています。

当院は平成14年度から協力医療機関となりました。私も北九州市痴呆対策総合検討委員会及びものわすれ外来評価検討委員会の委員として、発足から現在まで関わってきました。

対象はものわすれが気になる方で、ものわすれについての診断を行い、治療方針を立てること、適切な社会資源を紹介することを目的としています。

診断については、専門医が痴呆についての問診や検査を行い、状態を評価します。必要なときには、頭部CTや脳波検査も行います。治療方針については、かかりつけ医へ診断に基づいた診療情報提供をし、今後の治療に役立ちます。精神科の専門治療を必要とする症状がある場合は、当院に入院してもらったこともあります。また、進行させないための生活上のアドバイスや、対応に困っているご家族に、適切な方法をアドバイスすることもあります。痴呆では医療の必要性が無くても、介護やその他の社会的援助が必要なこともあります。

これらの様々なサービスの中から、本人の状態に合わせて適切などころにつながることも重要な機能です。痴呆というのは、本当にひどくなってしまいう前に適切な方法で援助をすることによって、介護者の負担も軽くなり、本人の状態も悪化を遅らせることができます。

できるだけ早期に、気軽な気持ちでものわすれ外来を訪れることをおすすめします。

高齢者の保健医療福祉

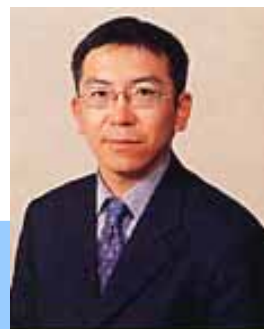
に関する

当院の取り組み

高齢者に関する取り組みは、地域の要望に応え、昭和53年に病院の傍に特別養護老人ホーム松和園を開設したことに始まります。平成4年には松和園在宅介護支援センターを受託して、総合的な相談を受けるようになりました。

さらに年々増加していく痴呆性老人に対するケアの要望を受け、平成7年から当院に老人性痴呆疾患治療病棟を設置しました。

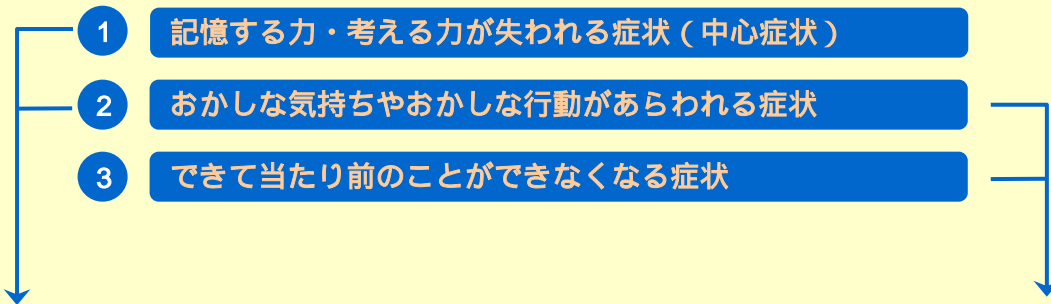
痴呆という障害が、保健医療福祉をパートナーレスにしている昨今ですが、同時に介護老人保健施設フレンドリー松ヶ江もスタートしました。松和園での通所介護サービスや、フレンドリー松ヶ江及び松和園での短期入所など、高齢者の多様なニーズに応えられるよう努力しています。いつも「高齢者の尊厳」を大切に、痴呆であっても活力のある生活をしていただけるよう援助をしていきたいと思えます。



理事長・院長 山浦敏宏

痴呆になったときの「対処のポイント」は、どんなことでしょうか。

医療による治療と、介護による日常生活機能の援助。
この2つを適切に組み合わせることが、「対処のポイント」です。



適切な「医療」によって対処しましょう。

診察をうけ、状態を正しく把握しましょう。
原因に合わせて、治せる場合は治療しましょう。
アルツハイマー型痴呆の場合、薬により、
の症状を緩和したり進行を遅らせたりすることができます。
少量の精神安定剤により、
の症状を緩和させることができます。

適切な「介護」によって対処しましょう。

本人および家族、ケアマネジャー、医師がよく話し合い、最適なケアプランをたてましょう。
「なじみの環境」を重視し、本人にとって不安のない環境づくりを心掛けましょう。
軽度のうちからできるだけ「声をかけて」あげ、日常生活をサポートしてあげましょう
本人のペースを大切に、見守ってあげることも重要です。

治せる痴呆

痴呆の症状をひき起こしている原因を明らかにすることで、初期であれば痴呆が治る場合があります。たとえば、水頭症が原因で痴呆の症状を併発している方の場合、外科手術により水頭症を治療することで、痴呆の症状も治るケースが少なくありません。

変性疾患	アルツハイマー病、ピック病、レービー小体病
血管性	脳血管障害
感染症	クロイツフェルトヤコブ病、エイズ脳症
代謝・栄養障害	肝硬変、尿毒症、ビタミンB1欠乏症
中毒	アルコール中毒、バルビツール中毒
低酸素症	心・呼吸停止後蘇生、一酸化炭素中毒
外傷・血腫	脳挫傷、硬膜下血腫
その他	水頭症

家族の方の < 正しい > 知識と理解が、重要です。

痴呆症状のあるお年寄りは、記憶障害の進行にともなう不安や焦りから、徘徊や夜間に騒いだりするといった「おかしな行動」をとりやすくなります。そうした場合、家族の方の痴呆に対する知識や理解が十分でないと、発見や対応が遅れたり、症状をさらに悪化させてしまうことがあります。また、お年寄りへの虐待といった最悪のケースにも陥りかねません。

痴呆症状のあるお年寄りに対するケアの基本は、本人の不安やストレスをとりのぞいてあげることです。そのためには、ご家族の方による正しい知識と理解に基づいたケアが必要です。

半年前と比較して、こんな症状が目立つようになったら、「痴呆のはじまり」かもしれません。まずは、身近な医師・保健師などに相談してみましょう。

同じことを何度も言ったり、聞いたりするようになった。
慣れていところで、道に迷うようになった。
財布を盗まれたと言って騒ぐようになった。
以前よりだらしなくなった。
夜中に急に起き出して騒ぐようになった。
置き忘れや、しまい忘れが目立つようになった。
計算の間違いが多くなった。
物の名前がでてこなくなった。

ささいなことで怒りっぽくなった。
時間や日付が不確かになった。
蛇口やガス栓の閉め忘れが目立つようになった。
以前は日課としてやっていたことをしなくなった。
以前はあった関心や興味が失われた。
以前よりもひどく疑い深くなった。
薬の管理ができなくなった。
テレビドラマの内容が理解できなくなった。